

石川県立金沢二水高等学校 自己評価計画書

石川県立金沢二水高等学校						石川県立金沢二水高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1. 生徒の学力をより一層高めるために教科指導力の強化・向上に努め、あらゆる学習活動を通して論理的思考力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の伸張を図る。	① 生徒の学習意欲を高め、学力をつける授業を展開する。	教務課 各教科 各学年	教師は、熱意を持って授業に取り組み、教材研究や授業研究等を行って教科指導法の改善に努めている。	【満足度指標】 理解できる授業が展開されている。	理解される授業が展開されている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A＋Bが80％未満の場合は改善策を検討する。	6月・12月に調査。（生徒による授業評価）
		教務課 各教科 各学年	生徒が日々の授業を受けることで、学力が向上していると実感できるような授業を心がけている。	【満足度指標】 授業を受けることで学力が向上している。	学力の向上に役立っている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A＋Bが80％未満の場合は改善策を検討する。	6月・12月に調査。（生徒による授業評価）
	② 習熟度別授業を生かし、個々の生徒の能力を引き出す。	教務課 SH企画室 数学科 英語科	数学・英語において習熟度別授業を実施し、個々の生徒の学力向上を図っている。	【満足度指標】 習熟度別少人数授業は学習理解と学力向上に役立っている。	習熟度別少人数授業は学習理解と学力向上に役立っている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A＋Bが80％未満の場合は改善策を検討する。	6月・12月に調査。（生徒による授業評価）
	③ 授業やあらゆる学校行事の機会を利用して、生徒が自分の意見や調べたことを発言・発表できる場と雰囲気をつくり、物怖じせずに応答や意見発表ができる生徒の増加を図る。	教務課 生徒会 各学年 各教科	自分の考えを意見として発言・発表することをためらう生徒が多い。自己表現力や伝達能力の育成を図る必要がある。	【努力指標】 生徒のプレゼンテーション能力伸張のため、あらゆる機会を利用して工夫・取組をしている。	授業・学校行事等で、生徒が物怖じせずに応答や意見を発言・発表することができるよう、工夫して取組んでいる。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A＋Bが70％未満の場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査。（教員アンケート）
				【成果指標】 授業に意欲を持って積極的に参加し、人前で自分の意見を発表することができる。	授業中に、質問や自分の意見をためらわずに発言・発表することができる。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A＋Bが70％未満の場合は改善策を検討する。	6月・12月に調査。（生徒アンケート。）

							石川県立金沢二水高等学校
重 点 目 標	具 体 的 取 組	主担当	現 状	評価の観点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
2 生徒が広い視野と高い志を持ち、主体的に選択した目標に向かって邁進していくことのできる進路指導体制の確立を図る。	① 1 年は職業研究、大学訪問・企業施設等の体験学習、2 年は大学出張講義、大学研究、インターンシップ等の体験学習、また全学年で進路講話を実施する。	進路課 教務課 各学年	キャリアガイダンスの充実を図り、生徒が文理選択を含め適切な進路選択ができるように指導を徹底させる必要がある。各取組をととして生徒が各自の進路について真摯に考える機会となっている。	【満足度指標】 各取組が生徒が進路選択を真摯に考える機会となっている。	各学年の取組が自分の進路選択にとって真摯に考えるための有効な機会になっている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	それぞれについて A + B が 80 % 未満の場合、改善策を検討する。	事業終了後、各学年でアンケート調査をおこなう。 (生徒アンケート)
	② 担任や各学年の進路指導が効果的に行われるよう行事や情報提供を行う。また、各学年ごとの進路目標が適切に理解されるような取組を行う。	進路課 各学年	進路指導課の行事や情報提供は多いが、各学年ごとにその達成目標と効果について十分理解を得ているとは言えない。	【努力指標】 各行事や情報を通して生徒の進路指導が適切に実施されている。特に学年会で進路目標が共通理解されている。	各学年ごとの進路目標がよく理解され、進路関係の諸行事が効果的に行われている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	A + B が 80 % 未満の場合、改善策を検討する。	7 月・1 2 月に調査する。 (教員アンケート)
	③ 進路指導に関する教職員校内研修をより充実させ、指導力向上と生徒・保護者への情報の提供をおこなう。特にホームページ等を活用し、情報提供に努める。	進路課 各学年	全体研修、小論文研修、学年進路検討会などの職員研修を実施しているが、保護者への情報提供という面ではやや不十分である。	【満足度指標】 生徒に対する進路指導と生徒・保護者への進路情報の提供が適切におこなわれている。	進路指導に関する情報提供が適切である A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	A + B が 80 % 未満の場合、改善策を検討する。	7 月・1 2 月に調査する。 (生徒・保護者アンケート)
	④ 生徒に高い進路目標を持たせ学習に意欲的に取り組ませることにより、学年当初と学年末における校外模試全国偏差値の高い生徒数の維持、増加をはかる。	進路課 1 学年 2 学年	校外模試結果を比較すると学年や教科により成績上位者人数を維持できていない年度がある。	【成果指標】 成績上位者に対する進路指導、教科指導の徹底により、校外模試における成績上位層が増加している。	1 年と 2 年で、1 月実施の校外模試における全国偏差値 60 以上の生徒数は、7 月実施の校外模試結果に比べ A 1 1 0 % 以上となった B 1 0 0 % 以上となった C 9 0 % 以上となった D 9 0 % 未満となった	C 以下の場合、結果を分析し、改善策を検討する。	各学年で 2 月に調査する。
	⑤ 難関大学訪問等に積極的に参加させ、志望校別補習を充実させるなど手厚い学習指導体制を確立する。	進路課 3 学年	本校生徒の高い資質を十分に伸ばし切れていない面がある。ただし、平成 21 年度の現役合格者数は国公立大学は 222 名、難関大学は 30 名、金沢大学は 66 名であり、全て昨年度を上回った。	【成果指標】 国公立大学 240 名以上 難関大学 50 名以上 金沢大学 100 名以上 (いずれも現役生徒)	現役生徒の合格者数が目標数の A 1 0 0 % 以上である B 9 5 % 以上である C 9 0 % 以上である D 9 0 % 未満である	C 以下の場合、結果を分析し、改善策を検討する。	進路課が年度末に調査・集計する。

						石川県立金沢二水高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 心身のバランスのとれた健康づくりを図りながら、進学校としての部活動を追究し、品位ある言動ができる自己管理能力を育成する。	①生徒が自ら健康課題に積極的に取組み、体力の向上を図る。	保健体育課	生徒の体力向上を図るために、授業時にサーキットトレーニングを導入するなど、取組みを工夫している。	【成果指標】 体力テストで全国平均を上回る項目数を増加させる。	体力テストにおいて、全国平均を上回る項目数が学年別男女別で、それぞれ8項目中の A 5項目以上が上回っている B 4項目上回っている C 2～3項目上回っている D 1項目上回っている	学年別、男女別それぞれにおいてC以下の場合に対策を検討する。	1・2年生について、2月に再調査する。
	②日頃からの生徒観察をとおり、気づいたことを見逃さず、各課・学年と連携して早期解決を図る。	教育相談 保健室 各学年	種々の内面的問題を抱えながら学校生活を送っている生徒が増加しており、些細なことがきっかけとなり別室登校や不登校につながる場合もある。	【努力目標】 生徒の精神的不安やストレスを和らげ、安心して学校生活を送ることができるようにする。	教育相談室・保健室等と連携して、問題（悩み）等を抱える生徒の早期発見・早期解決に努めている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	A+Bが80％未満の場合、実態を把握するとともに改善策を協議する。	7月・12月に調査する。 （教員アンケート）
	③部活動の活性化を推進しながらも、進学校としての部活動のありかたを追究し、部活動と学習との両立を図る。	生徒課 部顧問	保護者や学校関係者から部活動振興を望む声が多く寄せられている。部活動加入率を高めるとともに、年間を通した活発な活動が求められる。	【成果指標】 部活動の加入率を高めるとともに、中途退部者を出さない。	4月に部登録した1・2年部員の在籍率が A 98％以上である B 95％以上である C 92％以上である D 92％未満である	C以下の場合、部顧問会議等で部活動活性化策を協議する。	4月・10月に調査する。 （1・2年生徒アンケート）
		生徒課 部顧問 各学年	昨年度の生徒アンケートでは、部活動と学習の両立が「できている」「だいたいできている」と回答した生徒は50％程度であった。	【努力指標】 部活動と学習の両立ができている。	部活動に参加し、かつ平日の家庭学習時間は学年数+1時間以上である A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	A+Bが70％未満の場合、改善策を検討する。	6月・12月に調査する。 （生徒アンケート）
	④品位ある服装容儀を確立するために教職員の一致した指導と生徒の自覚を求める。	生徒課 各学年	生徒の自己評価は高いが、教員の評価はまだ低い。 生徒と教員の観点にずれがある。	【努力指標】 生徒は品位ある服装容儀であり、日常の挨拶もしっかりできている。	①本校生徒の服装容儀はしっかりとしている ②本校生徒の挨拶はきちんとしている A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	①、②それぞれについて、A+Bが80％未満の場合、または生徒と教員でずれが大きい場合は改善策を検討	7月・12月に調査する。 （生徒・教員アンケート）
					①自分は正しい服装容儀をしている。 ②自分は挨拶をきちんとしている A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	①、②それぞれについて、A+Bが80％未満の場合、改善策を検討する。	6月・12月に調査する。 （生徒アンケート）
⑤規則正しい生活習慣を維持できるよう、教職員の一致した指導のもと、朝の5分前登校、放課後7時の完全下校を守らせる。	生徒課 各学年	生徒・教職員とも意識は高まってきているが、指導をしなくなるとともに戻ることも考えられるので、継続指導の必要がある。	【努力指標】 5分前登校と放課後7時の完全下校を守る。	生徒は朝の5分前登校、放課後7時の完全下校を守っている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	A+Bが90％未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月に調査する。 （生徒・教員アンケート）	

